

教育方針	「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」 「国家社会の役に立つ人間になれ」	重点目標	生徒一人ひとりの夢や希望を叶える教育の推進 － 自らの成長を実感できる生徒の育成 － ○けじめと思いやりの心を育む学校 ○自ら学ぶ意欲・態度を育てる学校 ○地域とともにある学校 ○安全・安心な学校
	【指導方針】 一人ひとりの生徒を見つめ、励ましを与え、たくましく生きる力を育む教育の推進 ・豊かな心情をもった節度のある人づくりの推進 ・自ら学ぶ態度を身に付けさせる教育の推進 ・チャレンジ精神を育む教育の推進 ・健康で明朗な心身の育成を図る教育の推進		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善策
1 学校 経営	地域に開かれた学校、及び地域貢献活動の推進と学校教育活動の公開	・地域とともにある学校を推進するため、各種公開講座の実施、地域イベントへの積極的参加、教育関係団体等への施設設備の解放等を行う。 ・ホームページに毎日の教育活動を公開し、生徒が生き生きと活動している様子を掲載する。 (1日閲覧数平均 A:700 B:500 C:300 D:200 E:100) ・各課の定期刊行物を適時掲載する。	B	・感染症が収まっている時期には対応できるイベントへ積極的に参加することができた。 ・4月～1月までの1日平均閲覧数は550である。9月半ばよりカウンターの環境が変更されたので閲覧数がそれ以前の1/3程度となった。	・感染症の状況に応じて公開講座の実施や、地域イベントへ参加する。また、そのことに対応するスキルが感染症の長期化により低下しているため、生徒の社会性を高める指導を行う。 ・ホームページを毎日更新して、生徒の学習活動をリアルタイムに掲載することによりその内容について広く知ってもらおう。
	校務ICT化の推進による業務改善	・校務支援システムを活用して校務の軽減を図ることによって、生徒の指導に当たる時間を増やし、働き方改革を進める。	B	・校務支援システムの活用により、HR担任や教科担任の成績出欠処理に係る時間が少なくなっている。	・引き続き校務支援システムを活用して校務の軽減に努める。特に出欠入力についてはその日に行うことを徹底する。
	P T A 活動の充実	・学校行事の工夫により、保護者の多数参加を達成させる。	C	・コロナの感染状況が改善されず、保護者の学校行事への参加を制限せざるを得ない場面が多くなったが、できる限り情報の発信をした。	・感染状況を見ながら、P T A 活動が充実したものになるよう進めていく。
2 学習 指導	教科指導の充実	・ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を充実させるために、生徒1人1台端末を使って分かる授業、達成感のある授業に努め、学習に対する興味・関心を持たせる授業に取り組む。 ・数学・理科・英語においては習熟度別クラス編成を行い、個々の学力に応じた学習指導を行うと同時に確かな学力の定着を図る。 ・図書研修課と連携して研究授業を年間9クラスで実施する。 ・教員のICT機器活用スキルアップのための研修会を年間3回実施する。 (A:3回 B:2回 C:1回)	B	・生徒1人1台端末が普及したことにより、授業で使用する機会が大幅に増加した。各先生方が学習支援ツールのロイノートやTeamsを活用し、授業やHRを展開していただいたことで、生徒の学習に対する興味・関心が高まった。生徒は授業で端末を使用するのが当たり前の感覚になっている。 ・習熟度別クラス編成によりより細やかな指導を徹底して行っていた。更に、考査前の補習や学年での指導等行っていただき、生徒の学力向上に積極的に取り組めた。 ・ICT活用に関する研修会を4回実施し、教員のスキル向上につながった。	・ICT教育が充実するよう、定期的に研修会を実施し、教員のスキルアップに努めたい。新学習指導要領に則った授業が展開できるように努める。また、全員の先生がICTを使ったオンライン授業の実施ができるように研修を行っていく。 ・より丁寧で細やかな学習指導を行うためには習熟度別での学習は必要である。基礎学力の向上と定着の面からも来年度も実施する。 ・図書研修課と連携した研究授業は継続するとともに、互いに参観することで他教科の指導方法も取り入れられるようにしていく。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	<p>家庭学習習慣の定着及び基礎学力の定着</p>	<p>・家庭学習時間調査を活用して定期考査期間の学習意識の向上に努める。また、家庭学習習慣の定着を図るための各教科で課題を設定する。 ・漢字テスト平均点85点以上や数学計算テスト平均点75点以上などの具体的な目標を持たせると共に、自主的に学習に取り組む態度を養い、基礎学力の定着を図る。 (漢字テスト A:85点以上、B:84~80点、C:79~75点、D:74~70点、E:70点未満) (数学テスト A:75点以上、B:74~70点、C:69~65点、D:64~60点、E:60点未満) ・安易な欠席・遅刻をさせず、<u>1か年皆勤者率55%以上</u>を目指す。欠席の多い生徒には、家庭との連絡を密にし、休まないという意識を高めさせる。 (A:55%以上、B:54~50%、C:49~45%、D:44~40%、E:40%未満)</p>	B	<p>・家庭学習習慣の定着に向けて取り組めた。各教科での課題の出題や提出についても工夫していた。 ・漢字テストでは1年生が低い結果であった。2学期末段階での総合平均点は82.9点であった(B評価)。連続満点者が減少しており、2学期末段階では4名なのは残念である。数学計算テストの2学期末段階での総合平均点は78.3点であった(A評価)。 ・1か年皆勤者率については、2学期末で60.6%であった(A評価)。多くの生徒が皆勤で登校し学校生活を送ることができている。新型コロナウイルス感染症予防の観点からも生徒の健康観察には気を配り、担任を通じて家庭との連絡を十分に行っていた成果である。</p>	<p>・家庭学習の定着を図るために、各教科で課題の工夫をする。 ・漢字テスト、数学計算テストの実施により基礎学力の定着を図る。HR担任と連携したプレテストの実施やテスト前の学習を教科と連携して実施する。 ・自己の体調管理に気を付けさせ、皆勤率の向上を図る。特に、遅刻、欠席がちな生徒については家庭と十分に連絡をとり、充実した学校生活を送れるようにする。</p>
3 生徒 指導	<p>基本的生活習慣の確立</p>	<p>・さわやかで気持ちの良い挨拶や返事、正しい言葉遣いのできる生徒を育成する。 ・家庭との連携を深め基本的生活習慣を確立し、いじめや問題行動の未然防止と早期発見に努める。</p>	B	<p>・「正しい言葉遣いや元気な挨拶ができています」では、昨年に続きよい評価であった。 ・「保護者との連携が十分とれている」では、保護者から高い評価を得ている。 ・ここ数年、5分前登校ができていない生徒が減少してきており、基本的生活習慣の確立がなされている。</p>	<p>・教員は生徒に対して毅然とした態度で接することを心掛け、規則・マナーを守らせる。 ・時間・提出期限・身だしなみ・けじめをつける指導を行う。 ・無断アルバイト、深夜徘徊や外泊をさせないように家庭・地域と連携して、問題行動を未然に防ぐよう努める。</p>
	<p>個別指導の充実と教育相談の推進</p>	<p>・個人面談を1人年間3回以上実施し、きめ細かい心の通う生徒指導に努める。 (A:3回以上、B:2回、C:1回、D:0回) ・家庭との連携を深め、不登校の未然防止と早期発見に努める。</p>	B	<p>・新型コロナウイルス感染症に対応して、玄関先での家庭訪問が実施できた。年3回以上の面接を目標に応じて個人面談や家庭訪問を実施している。 ・教育相談課と協力していじめや不登校生徒に適切に対応した。</p>	<p>・面接週間以外でも生徒の様子を観察し、必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行い、いじめ・暴力・不登校の早期発見に努める。</p>
	<p>自ら行動できる生徒の育成</p>	<p>・規則が遵守できる判断力のある人間の育成に努める。 ・誰が見ても端正で清潔感のある身だしなみが自主的にできる学校づくりを目指す。 ・自分の身は自分で守るという意識を持たせ、交通ルールやマナーを守る態度を育てる。 ・教室の整理整頓や、施錠を確実に行える態度を養う。 ・携帯電話のルール・マナー・モラルを持って使用できる生徒を育成する。</p>	B	<p>・近年、生徒の規範意識が高まり、校則や身だしなみの違反者が減少しているが、頭髮については時代に合わせた指導の在り方を考える必要がある。 ・地域からの「元気な挨拶ができ、行動が良くなってきている。」という評価が定着しつつある。 ・自転車通学生の違反・事故は接触事故が3件、原付通学生の事故は0件であった。 ・登下校のヘルメット着用率は100%であった。 ・盗難が1件発生し、教室の整理整頓や移動教室時の施錠する意識を高める必要がある。 ・校内での携帯電話不正使用は、登校時に預ける生徒が多いので、減少している。</p>	<p>・HR活動で道徳教育を行い、規範意識を身に付けさせる。また、自主的に身だしなみを整えることを意識させ、校外でも制服を正しく着用させる。 ・原付通学生には引き続き安全教室、メーター確認を毎月実施するなど違反・事故防止に努める。 ・教室、部室の鍵の管理は各クラス、部で責任を持って管理できるよう徹底する。 ・HR活動で携帯電話やSNSのルール・マナー・モラルについて指導し、トラブルになりそうなときには、自分たちで解決したり、注意し合えたりできる環境を整える。</p>
4 特別 活動	<p>部活動の活性化</p>	<p>・部活動加入率100%を目指して活性化を図り、学校を元気にする。 (A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:85%未満) ・<u>県総体出場者50人以上を目指す。</u> (A:50人以上、B:49~45人、C:44~40人、D:39~35人、E:35人未満) ・<u>県高校総合文化祭出場者30人以上を目指す。</u> (A:30人以上、B:29~25人、C:24~20人、D:19~15人、E:15人未満)</p>	B	<p>・加入率は99%で目標に限りなく近づいている。 ・県総体出場へは48名が参加し、目標には届かなかったが、小さな学校としては成果を上げている。高文祭参加者も22名とやや目標を達成できなかったが、生徒数減少の中、大会等において成果を上げている。運動部において、新人大会や選手権大会で、人数が足りなかったが、他の部活に協力してもらい参加できた。部活動の精選については検討が必要である。</p>	<p>・運動部を中心に意欲的な活動が実践され、学校全体に活気が見られる、今後も運動部の活性化を推し進める。また、今年度から実施されている「学校の運動部活動に係わる活動方針」に基づいた部活動の運営に取り組み、部員不足解消に努めていく。</p>

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	豊かな人間性の育成	・ボランティア活動等への自主的な参加を促し、一人年間2回以上の参加を目指し、公共心や思いやりの心を養う。 (A:2回以上、B:1.9~1.5回、C:1.4~1.0回、D:0.9~0.5回、E:0.5未満)	C	・新型コロナウイルス対応により、ボランティア活動への参加の機会は少なかった。多くの地域の行事、イベントが中止となってしまったが、可能な範囲で生徒の活動の機会を設けることができた。	・ボランティア活動を部活動やクラス単位で実施したり、誰でもそれに参加しやすいように、情報の提供を行う。
5 進路 指導	キャリア教育の充実	・体験学習や講習会、進路セミナーなどを通して働くことの意義や目的を理解し、生徒自身が望ましい勤労観や職業観を育て、困難に向き合って自ら解決できる力を養うとともに、地域に貢献できる人材を育成する。 ・1年次より望ましい職業観や勤労観を育成し、進路実現へつなげる。 ・3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供によって生徒および保護者の進路意識の高揚に努める。	C	・感染症予防のため、1学期各種ガイダンスなどが実施できなかったが、オンラインなどによりカバーすることができた。また、各学科、各学年でもキャリア教育に力を入れて取り組んでおり、職場体験や見学で生徒の進路意識の高揚につなげることができた。	・今後も各学科、各学年で計画的にキャリア教育に取り組んでいく。 ・オンラインを活用した進学・就職説明会に積極的に参加させる。
	就職指導の充実	・企業訪問を積極的に実施し、職安等の関係機関と連携をとることで求人確保に努める。 ・応募前職場見学の参加により、生徒に自主的・意欲的な就職活動の実践を指導する。 ・進路講演会や職場見学、意識高揚のためのガイダンスに取り組むとともに、面接指導や履歴書指導の充実に努め、就職希望者の決定率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満)	A	・学校幹旋での就職希望者の決定率は100%となった。一人数社の応募前見学への参加ができ、進路選択の参考となった。HR担任のきめ細かな指導が、生徒の意識の向上につながり、着実な成果につながった。 ・1・2年生合同の校内企業説明会、商工会議所やハローワークと連携したガイダンス等、生徒の進路意識の高揚に取り組めた。	・応募前職場見学および企業訪問は今後も継続する。 ・関係機関との連携を強化していく。 ・多くの先生方に面接等かかわっていただいた。今後も生徒の進路目標の達成のため計画的に実施していく。 ・1・2年生に対して、体系的な進路指導を行う。
	進学指導の充実	・早期に進路目標を設定させ、一人一人に応じた細やかな個別指導を徹底することで生徒の資質の向上を図り、進学希望者の合格率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満)	B	・感染症予防のため、1学期各種ガイダンスなどが実施できなかったが、オンラインなどによりカバーすることができた。また、各学科、各学年でもキャリア教育に力を入れて取り組んでおり、職場体験や見学で生徒の進路意識の高揚につなげることができた。	・今後も各学科、各学年で計画的にキャリア教育に取り組んでいく。 ・オンラインを活用した進学・就職説明会に積極的に参加させる。
6 農業 教育	資格指導を充実させ確かな力量を確保	・1人1資格以上の取得を目指す。	C	・各学科・科目の特性を生かして、資格取得に取り組む、愛媛県職業能力開発協会技能検定優秀賞を受賞した。一方で、合格率が著しく低下した資格もあり、指導方法の改善が必要である。	・HR担任や資格担当者・教科指導者からの働き方を強め、生徒の進路意識の高揚を図るとともに資格取得に向けての意欲を喚起する。 ・資格指導力の向上のため、指導する側がさらなる研鑽に取り組む。
	農業クラブ活動の充実	・新学習指導要領の実施を見据え、各科目においてプロジェクト活動を実施する。	C	・全員参加による農業クラブ分会活動が実施できた。 ・農業クラブの各種の競技会や発表会において、日頃の学習の成果を発揮し優秀な成績を修めることができ、今年度も全国大会（産業教育フェアフラワーアレンジメントコンテスト）へ出場することができた。 ・未利用資源の活用や新素材の開発、生命科学の探求といった新たな視点でプロジェクト活動も始まっており、今後の活躍が期待できる。	・各科目におけるプロジェクト活動の充実を図る。 ・コロナ禍、コロナ後における農業クラブ活動の在り方を検討し、活性化に向けて、教職員・生徒ともに努力していく。
	地域に開かれた学校	・農業祭や地域行事に積極的に参加し地域住民との交流1万人以上を目指し、地域に貢献する生徒を育成する。 (A:10,000人以上、B:9,999~8,000人、C:7,999~6,000人、D:5,999~5,000人、E:5,000人未満) ・ホームページ等を利用して、農業教育の魅力や学習成果の情報発信を行う。	C	・新型コロナウイルス感染症のため、自粛していた地域行事への参加や地域住民との交流活動を感染症対策を徹底した上で一部実施することができた。 ・農業祭は、昨年同様、感染症対策を行った上で、小規模・限定的に実施することができた。 ・開放講座・うきうきわくわくスクールは、新型コロナウイルス感染症の今年度も中止としたが、感染状況を把握した上で、一般対象の研修会等を部分的に実施することができた。	・コロナ禍、コロナ後における開かれた学校の在り方を検討し、農業高校の持ち味を生かした地域交流を深めることで、地域に根ざし、地域に貢献する学校を構築する。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

7 環境 教育	豊かな自然を大切にす る心の育成	・環境美化に努め、緑豊かで潤いのある学習環境 づくりに努める。	B	・今年度も国土交通省弘川河川事務所河川愛護モ ニターに応募し、弘川の環境調査や清掃活動を 継続して取り組んでいる。7月には長年の功績が 認められ、令和3年度国土交通省行政関係功労者 表彰式において、河川関係功労者（河川愛護） に表彰された。	・今後も関係機関と協力して、豊かな自然を大切 にする心の育成をしていく。
	身近な環境問題の解決 に主体的に取り組む生 徒の育成	・終始徹底した清掃への取組100%を目標に、校内 ゴミ0（ゼロ）を目指す。 (A:100%、B:99～85%、C:84～70%、D:69～55%、 E:55%未満) ・美化活動に努め、汚させない環境づくりをする。 授業を通して環境への意識を高めさせ、実践活 動に取り組む。	C	・終始徹底した清掃に関する生徒の自己評価は、 1学期80%、2学期は79%となり、教師の目か らははじめにできていると思うが100%の数値目 標には届かない。 ・美化委員やボランティア生徒による朝清掃が定 期的に行われ、汚さない環境作りの意識が育っ ている。	・開始・終了時間を守らせ徹底し、集中して取り 組むよう注意喚起をしていく。 ・様々な授業や活動を通して環境負荷の少ない生 活について考えさせ、行動に移すように促す。
8 人権 教育	平和と人権を大切にす る心の育成	・生徒人権委員会の活動を活発にし、その活動内 容を「人権だより」に掲載したり、人権教育集 会を通して全校生徒に知らせることにより、校 内の人権意識の高揚を図る。また、ホームペ ージを有効に活用し、人権に関する行事後でき るだけ早く更新する。	C	・人権委員の校内での活動は予定通り実施でき た。しかし、今年度も校外での講演会や研修会 がほとんど中止となり、例年の活動ができな かったが、実施できた校外活動には積極的に取 り組み、人権問題について考えを深め、人権意 識の向上に努めた。また、ホームページを有効 に活用し、取り組んだ活動を他校や地域に発信 することができた。	・来年度は、感染症対策を十分行い、会議配信シ ステムを活用しながら、委員会活動を充実させ る。
	教育相談の充実	・いじめに関するアンケートを学期に1回実施 し、いじめの実態を把握するとともに、いじめ の早期発見・早期解決を図る。 ・生徒が気軽に来室できるように、常に教育相談 室の環境を整えておく。また、カウンセラーが 常駐するようにしておく。	B	・いじめに関するアンケートは、各学期に1回ず つ実施し、いじめの早期発見・早期解決を図る ことができた。 ・生徒が気軽に教育相談室を利用できるように、 いつも環境を整えておくことができた。	・来年度も、いじめに関するアンケートの回収、 処理と分析を迅速に行い、いじめの早期発見・ 早期解決につなげていく。また、ホームルーム 担任やスクールライフアドバイザーとの連携を 密にしていく。
	家庭や地域と連携した 活動の推進	・人権・同和教育ホームルーム活動等の人権に関 する公開授業の案内が、確実に保護者に届くよ うに工夫する。また、「人権だより」に保護者 の意見や感想を掲載することによって、地域や 家庭と連携した人権教育を推進する。	B	・年間4回実施した人権に関する公開授業に、多 くの方に来てもらうことができた。また、「人権 だより」に通信欄を設け、保護者に意見や感想 等を記入していただくことで、双方向のやりと りが生まれ、次の活動につなげることができ た。今後も継続していきたい。	・来年度も、人権に関する公開授業に多くの保護 者が参観できる手立てを考える。
9 情報 教育	情報活用能力の育成	・生徒1人1台のパソコンの導入に伴い、知識や 活用技術を身につけ、授業に活用できる能力を 養う。 ・情報セキュリティに対する教職員の意識を高 め、ICTの普及に対する適応力を養う。 HPやSNSを活用し学校の情報を積極的に発 信する。	B	・新型コロナウイルスの影響で、学校におけるI CT機器の活用を一気に進めることができた。 校内での研修会等により、教職員の意識や技能 は確実に向上している。 ・HPはコロナ関係の情報を多く掲載しているた め見にくくなっている。少しずつ整理してい きたい。	・教職員のICT関連の研修会を実施し、リモ ート授業等が普通に行えるように、より一層の活 用を図れるよう努力する。 ・ホームページの分担を更に徹底する。
	情報モラル・コミュニ ケーション能力の育成	・パソコンやスマートフォン等を用いたインター ネット、特にSNSの利用について具体的な研 修を行い、生徒の情報モラル・コミュニケー ション能力の育成を目指す。	C	・Teamsやロイロノートの導入などで、生徒が学習 に1人1台のPCやスマートフォンを利用する機会 も増えてきているため、情報モラルの育成を第 一に考えた研修の機会が必要である。	・生徒用PCの充実により、インターネットの危 険性をより身近に感じることができるような研 修を考えていく。具体的には来年度より実施さ れる新課程の情報Iでの実施を考えている。
10 図書 指導	読書習慣の定着	・朝の読書に学校全体で取り組み、活字メディア への興味・関心を高め、日常生活の中で読書に 親しむ態度を育てる。	C	・朝の読書に学校全体で取り組めた。読書アン ケートで、朝の読書で読んだ本を0冊、1～2 冊と答える生徒が減少、5～9冊と答える生徒 が増加。また、朝の読書で本に興味を持つよ うになったと答えた生徒が3割を超えた。	・朝の読書が読書習慣の確立につながるよう、引 き続き学校全体で取り組む。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	図書館利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業等、様々な場面で図書館を活用する機会を増やす。 図書の出張貸出や多様な本の紹介などを行い、図書委員会活動を充実させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業等で図書館を利用することができた。普段は図書館を利用しない生徒の関心を高めることができた。 図書の出張貸出を3回実施した。校内の掲示やブックトークなどで本の紹介ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を始めとして、様々な場面で生徒にも先生方にも図書館を利用してもらえるようにする。 生徒相互に本を紹介し合うなど、図書委員を中心に生徒主体の活動を充実させる。
11 学校 保健 学校 安全	心身の健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導や保健委員会活動を充実させ、自らの健康に関心を持ち、管理できる力を養う。 健康診断結果や保健室来室状況等をもとに、生徒の心身の健康課題の早期発見、早期対応を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月保健だよりを発行した。保健委員会では感染症対策や掲示物作成などを行い、健康への関心を高めることができた。 メンタル面で来室する生徒が多く、関係する先生方と連携を図りながら個別の対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 時期に合わせて健康に関する情報を啓発すると共に、保健委員の活動を充実させる。 二次検査の受診率を高めるために個別の声掛けを進める。各検診時には、治療だけでなく疾病予防の観点も含めて指導していく。
	学校の安全管理と環境衛生管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 校内の安全点検（月1回）と実践的な避難訓練を実施し、安全のために自ら考えて行動する力を育成する。 感染症対策と環境衛生検査を確実にし、校内環境の維持や改善に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、校内の安全点検を行い、危険箇所や消火器の有無を確認できた。計画している年2回の避難訓練に加えて、原子力の避難訓練も実施して安全意識を高めることができた。 毎日校内の消毒を行い、感染症対策を行った。学校薬剤師の先生に助言をいただきながら、保健委員と定期的環境衛生検査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検で校内の安全を確認すると共に、消防署と連携を図り実践的な避難訓練を実施する。 日常点検や定期検査を計画的に行い、校内の環境衛生を良好に保つよう努める。
12 学校 行政	施設設備の充実と施設維持管理経費の節減	<ul style="list-style-type: none"> トイレの洋式化を推進する。 学校運営費の節約に努め、効率的・効果的な運用に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生産科学科教棟男子トイレ洋式化工事完了。 学校運営費について、光熱水費は学校全体で節約を心掛け水道代は昨年度より支出減、電気代はコロナ感染症拡大防止対策で今年度電気を使用する物品が増加しているにもかかわらず昨年度並みで推移している。修繕費は備品及び施設の軽微な修繕が多くあり増加したが早急な対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 洋式化されていないトイレは順次改修設置を進める。 引き続き光熱水費の節約に努め、他の学校運営費にかかる費用についても効率的・効果的な運用を図る。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。